

## はじめに

若竹ミュージカル長崎公演実行委員長  
(前長崎大学教育学部附属特別支援学校長)

相川 勝代

本日は、わくわくコンサート5周年記念・若竹ミュージカル長崎・公演「サウンドオブ・ミュージック」にご来場いただき誠にありがとうございます。

音楽が、人と人をつなぎ、人の輪を広げてくれます。きびしい残暑の中、東京から「若竹ミュージカル」の仲間たちが長崎に来てくださいました。総勢150人余。大道具、小道具は、長距離トラックで陸上輸送されました。

若竹ミュージカルは、東京学芸大学教育学部附属特別支援学校（学大附属）の卒業生を中心に家族、支援者らによって結成されています。オーケストラの指揮者は広井隆氏です。

本日、長崎で若竹ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の公演を行うことになった発端は、学大附属と長崎大学教育学部附属特別支援学校（長大附属）の人事交流から始まります。02年度、若竹ミュージカル代表工藤傑史氏の長大附属との人事交流がありました。声楽家でもある工藤氏のまわりに子どもたちと保護者が集まり、美しい歌声が響くようになり、「どれみコーラス」と呼ぶようになりました。

03年3月、音楽科の福井先生（現特別支援学校校長）を中心に、附属小学校、附属中学校、桜町小学校の仲間たちと、第1回の「わくわくコンサート」を長崎大学中部講堂で開催しました。前回から、かわいい幼稚園児たちも参加してくれています。コンサートの企画・運営には教育学部の学生が当たってくれています。コンサートをとおして、附属学校間、そして大学と附属学校が連携を強めていく機会のひとつになればと願っています。

発足当時からどれみコーラスを支援している教員2名と、03年11月3日、東京学芸大学芸術館ホールでの若竹ミュージカル公演「屋根の上のヴァイオリン弾き」を見ました。すばらしい公演に感動しました。そこで長崎公演の話が持ち上がりました。そして、ようやく本日の長崎公演となりました。

待ちに待った長崎公演です。7月14日、東京の小平市で、本日の演目「サウンド・オブ・ミュージック」の公演がありました。長崎は当日朝、台風4号の影響を受け、交通機関の運休・欠航が伝えられていました。どれみコーラス支援の教員らと私は、幸いに予約便の飛行機が運行し、ルネこだいらでの「サウンド・オブ・ミュージック」公演に間に合いました。楽しく、心に沁みる名舞台でした。若竹ミュージカルの仲間たちは、その後も長崎公演をさらによいものにする為に、練習を重ねてくださいました。

開演まで、期待でわくわくします。第1部が「わくわくコンサート」、第2部は若竹ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」です。どうぞ、お楽しみください。



学 長 齋 藤 寛

「若竹ミュージカル」の長崎初公演を歓迎します。

私は毎年、長崎大学教育学部と附属中学校・小学校・幼稚園・特別支援学校（旧称・養護学校）の合同音楽会「わくわくコンサート」を楽しみにしています。かれらの、一生懸命で、楽しそうな姿は聞いている私まで幸せにしてくれます。

ところで、東京学芸大学附属特別支援学校（旧称・同大学附属養護学校）の卒業生とその家族、同校教員、支援者らの皆さんで結成する劇団「若竹ミュージカル」のすばらしさは、私も耳にしていました。

昨年秋に、相川勝代長崎大学名誉教授（元・長崎大学教育学部附属養護学校長）から、“来年、平成19年8月に長崎で「若竹ミュージカル」の公演をやります、このコンサートは長大の「わくわくコンサート」5周年を記念する公演でもあるのです。”と伺いました。すばらしいですね。

いよいよその時が来ました。「若竹ミュージカル」の皆さん、はるばる長崎まで来て、すばらしいミュージカルを見せて下さり、ほんとうにありがとうございます。長崎でたくさんの仲間と会い、多くの友だちをつくって下さい。

皆さんの公演が長崎の多くの人々に歓迎され、愛されることを信じています。



学 部 長 橋 本 健 夫

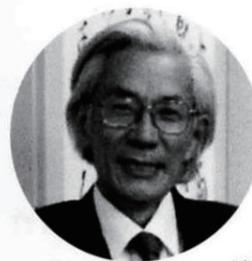
心和やかなコンサートへようこそ

音楽を楽しむことを通して附属校・園の子どもたちの心が一つになる「わくわくコンサート」が5年目を迎えました。年を経る毎にその一つになった心は大きく、豊かに成長しています。そして、彼らの心は大人の社会に潤いをもたらしてくれています。

今回、「若竹ミュージカル」の皆様方をお迎えして記念公演を開催できることは大変な喜びです。若竹ミュージカルの歴史は古く、様々な場での活躍は高く評価されています。その方々と御一緒させていただけることは、附属校・園の子どもたちにとって大きな刺激となることでしょう。その中で、多くのことを学び、将来に向けた力に変えて欲しいと願っています。

楽しい輪が広がるコンサートに乾杯！

夢と憧れ・共同と希望・そして喜び——山のあなたに向かって  
・・・「若竹ミュージカル長崎公演」に寄せて・・・



東京学芸大学長 鷲 山 恭 彦

人事の交流は、思いがけない素敵な果実をもたらす。今回の『サウンド・オブ・ミュージック』の長崎公演の、そもそもの淵源をたどるならば、今を去る5年前、本学附属養護学校の工藤傑史君が長崎大学附属養護学校に1年間お世話になったことから始まる。温かく受け入れられ、多くの優れた同僚に囲まれて、教育と研究に没頭した至福の日々だったという。

よき思い出は、よき交流を生む。両校の間に実践交流が生まれ、その中心におられたのが今回の実行委員長を務めて下さる、前長崎大学教育学部附属特別支援学校長の相川勝代先生であり、その教育学部音楽講座の福井昭史先生をはじめとした皆さんである。

本学の附属特別支援学校には、在校生と卒業生を生涯に渡って結ぶ「若竹会」があり、すでに半世紀を超える歴史を持っているが、そこに「若竹ミュージカル」が生まれたのが、1993年である。以来、本学の学園祭である小金井祭では、『サウンド・オブ・ミュージック』『ウェスト・サイド・ストーリー』『屋根の上のヴァイオリン弾き』などが名物の催しになっている。

長崎大学附属学校には、「わくわくコンサート」のよき伝統がある。そのコンセプトが本学に伝播された。そして「附属の輪カーニバル」として新たな転生をとげた。今度は、私たちのミュージカルが長崎に伺って、この「わくわくコンサート」とジョイントする。

このミュージカルの素晴らしさは、卒業生、お父さん、お母さん、兄弟姉妹、先生、学生の皆さん、それに一般の支援者の皆さんが一体となったアンサンブルにあらう。生涯にわたって支えあい、学びあい、共同し、伸びていく、人間の発達と形成の壮大なロマンを体現している。

働くこと、学ぶこと、支えること、歌うこと、演ずること。芸術表現は、それぞれの生活のクオリティーを更に高みへと導く。皆がそこに加わり、アンサンブルをつくり、その真ん中で広井隆先生が指揮をとっている。何という素晴らしく崇高な営みだろうか。

実は、若竹ミュージカル代表の工藤君を私はドイツ語の時間に教えたことがある。今から四半世紀前のことである。悠々とした風貌の中に、何者かに成らんとするロマンを漂わせていた。文法の合間に、幾つかの有名なドイツの詩を教えたりした。工藤君のクラスで教えたかどうかは記憶にないが、カール・ブッセの詩「山のあなたの空遠く、幸い住むと人の言う・・・」も、その一つだった。工藤君はあの頃、どんな夢と憧れを抱いていたのだろうか。

奇しくも『サウンド・オブ・ミュージック』のハイライトは「すべての山にのぼれ」である。「生きることは山に登ること、悲しみや喜びを越えて夢を掴むこと」——夢みて憧れる、その実現に人々が集う、共にあることが生きる希望を生み、芸術は悲しみを喜びと感動に変える。

憧れとは、己のうちに潜んでいる力への予感である。ファシズムに抵抗し、自分の内なる力を確信し、人間の尊厳を守り、希望の世界へと越えていった、この人間讃歌のミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』を、皆さん、たっぷり堪能しましょう。

## 若竹ミュージカル長崎公演に寄せて



東京学芸大学附属特別支援学校

校長 伊藤友彦

このたび、「わくわくコンサート」5周年記念公演として本校の若竹ミュージカルを長崎の皆様にもご覧いただけることをたいへんうれしく思っております。若竹ミュージカルは本校の卒業生とその家族・教員、支援者、そして東京学芸大学管弦楽団を母体とする若竹ミュージカルオーケストラによって1993年に結成されました。現在では若竹ミュージカルは、子どもたちの卒業後の支援を支える重要なシステムの一つであり、本校が誇る貴重な財産の一つとなっております。

聞くところによりますと、本校の工藤教諭が人事交流で長崎大学教育学部附属特別支援学校に1年間お世話になった際、若竹ミュージカルの活動を長崎大学の附属学校に伝えたことが今日の「わくわくコンサート」の原点であるということです。それが今回「わくわくコンサート5周年記念公演」としてりっぱに花開いたこととなります。一方、本学で今年3月に初めて開催された「附属学校の輪カーニバル」は長崎大学の「わくわくコンサート」がモデルとなっていると聞いております。つまり、本校における若竹ミュージカルという活動が遠く離れた長崎大学で「わくわくコンサート」という新たな活動を産みだし、その活動を、今度は逆に東京学芸大学が取り入れたということになります。

一つの附属学校における活動が遠く離れた他の附属学校で違うかたちの活動を産みだし、その新たな活動を、最初にそのような活動を生み出した附属学校の大学が取り入れて新たなかたちを模索し始めたという経緯は、大学との共同による教育実践にかかわる研究開発を使命とする附属学校の役割を考えたときに、とてもすばらしいことだと思います。なお、今回は本学と長崎大学との音楽を通じた教育実践の研究開発の例ですが、今後は、さまざまな大学間で、しかも音楽以外のさまざまな領域においても、このようなかたちで大学との共同による附属学校の教育実践が進展していくことを期待したいと思います。そして何よりも、そのような研究開発の進展が特別な支援を必要とする子どもたちを含む、子どもたちの理解と支援の進展に寄与することを願っております。

最後に、今回の公演にご尽力いただきました、長崎大学教育学部附属特別支援学校の前校長相川勝代先生、現校長の福井昭史先生をはじめ、関係の諸先生方に心より感謝申し上げます。

## 新しい価値の発信を



若竹ミュージカル代表

工藤 傑 史

長崎大学教育学部附属特別支援学校（前附属養護学校）に人事交流で1年間お世話になってから5年が経ちました。東北生まれの東北育ち。関東より西へはほとんど行ったことがなかった私にとって、長崎での生活は、ことば、食べ物、気候、街の景観、学校のシステムまですべてが一変し、別世界にタイムスリップしたような毎日でした。そんな中で、初めて会う附属特別支援学校の子どもたち、先生方、保護者の皆さん、下宿した住吉のたこ焼き屋さん、ご近所の方々にも温かく迎え入れていただきました。

音楽の教員だった私が、唯一この長崎で積極的にできたこと、それが「ドレミコーラス」の立ち上げでした。

初めての練習日、長崎大学教育学部音楽講座の教室に附属特別支援学校（前附属養護学校）や地域の特別支援学級（前特殊学級）の子どもたち、卒業生、お母さん方が期待と不安の表情で集まってきました。練習では「ドレミのうた」や「私のお気に入り」、「エーデルワイス」…とミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』のヒットナンバーを歌っていきました。（実はその時から、若竹ミュージカルとの共演を密かに思い描いていたのですが。）「ドレミコーラス」のメンバーは、みんな歌うことが大好きで、歌い重ねる毎に歌声にどどん力がかもってきました。「これはどこかで見た光景…、そう！若竹ミュージカルと同じだ！」。長崎にいながら若竹の練習に参加しているような気分になって、元気が湧いてきたのを覚えています。

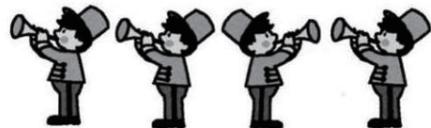
人事交流を終えて東京に戻ってからも、毎年3月には「わくわくコンサート」の応援に駆けつけました。年々参加者や客席を意識した選曲が多くなったことや、子どもたちが学校種を越えて仲良く司会を担当したり、学生さんが運営に参加しコンサート全体を盛り上げて下さるなど、どんどん参加型のコンサートとして広がっていくのには感動しました。

いろいろな立場の人が集まって一緒に一つのものを作ること。「わくわくコンサート」も若竹ミュージカルもその点は同じですが、これこそこれからの時代の新しい価値の創造ではないかと思えます。しかもそれが「音楽」という表現方法の中で成り立ち、客席も含めてそこに参加した人すべてに「音楽」を通して伝わることもすばらしいことだと思います。

今日は両者が同じ舞台に立つことで、この新しい価値をより多くの人たちに伝えられたらと思います。そして、この「音楽」がタイトルにもなっている『サウンド・オブ・ミュージック』の中で、音楽が引き起こすたくさんのドラマを感じていただけたらと思います。

最後に、「ドレミコーラス」を立ち上げから応援していただき、今日の共催コンサートの実現のために奔走して下さった相川勝代先生、福井昭史先生、「ドレミコーラス」を一緒に立ち上げ、若竹との交流を続けて下さった田口眞弓先生、川尻暁子先生、学校をあげて全面的に応援して下さった附属特別支援学校の先生方、児童生徒のみなさん、保護者のみなさん、本日のボランティアとしてかけつけて下さった長崎大学、純心大学の学生のみなさん、そのほかこのコンサートのためにお力を貸して下さったすべてのみなさんに心からお礼を申し上げます。

オープニング 長崎大学学生 ファンファーレ



1 長崎大学教育学部附属幼稚園

「うちゅうせんのうた」

作詞：ともろぎ ゆきお

作曲：峯 陽

「さんぽ」

作詞：中川 季枝子

作曲：久石 譲



2 長崎大学教育学部附属特別支援学校（ドレミコーラス）



「長崎に生まれて」

作詞：竜 真知子

作曲：甲斐 正人

3 長崎大学教育学部附属小学校合唱団



「蝶」

作詞：太田 倭子

作曲：太田 桜子



4 長崎大学教育学部附属中学校コーラス部

「朝」

作詞：谷川俊太郎

作曲：大熊 崇子



5 長崎大学教育学部附属小学校金管バンド部

「管打楽器のための祝典」

作曲：スウェアリンジェン

6 長崎大学教育学部附属中学校吹奏楽部

「センチュリア」

作曲：スウェアリンジェン

フィナーレ 全員合唱 「さんぽ」

「となりのトトロ」でおなじみの曲です。附属四校園でこころを合わせ、楽しく元気に歌います。これからもこの絆を大切に「わくわくコンサート」を続けていきたいと思ひます。

司会・進行



プロフィール

高月 晶子・・・元NBC長崎放送アナウンサー。

（在局中はニュース番組のキャスターやドキュメンタリーのナレーションなど多数担当）現在フリーで演奏会やイベント等の司会を務める他、ボランティアの読み聞かせなど、語りの活動も行っている。

長崎大学教育学部卒業（音楽専攻）

第2部

# *The Sound of Music*

Music by RICHARD RODGERS

Lyrics by OSCAR HAMMERSTEIN 2ND

Book by HOWARD LINDSAY & RUSSEL CROUSE

Suggested by "The Trapp Family Singers" by Maria Augusta Trapp

構成・台本：若竹ミュージカル演出部

東京学芸大学附属特別支援学校  
卒業生・家族・教員、支援者  
若竹ミュージカルオーケストラ  
指揮：広井 隆

THE SOUND OF MUSIC is presented through special arrangement with Toho Music Corporation on behalf of The Rogers and Hammerstein Theatricals, New York, NY.

# 「サウンド・オブ・ミュージック」 ストーリーと曲

この作品は、1938年スイス国境に近いオーストリア・アルプスのトラップ一家の物語です。

## 第一幕

### 第1場 ノンベルク修道院 ♪《詠唱・朝の賛美歌・アレルヤ》：シスター達

オーストリアの古都ザルツブルグにほど近いノンベルク修道院では、ミサ（朝のお祈り）が行われています。ところが今日も、「見習いシスターのマリアがいない。」と、シスター達が捜しています。

### 第2場 修道院近くの丘 ♪《サウンド・オブ・ミュージック》：マリア・（コーラス）

そのマリアは、シスターに憧れるものの、山歩きと歌を歌うことが大好き。今日も近くの丘に出かけて、アルプスの山々に向かって歌います。

### 第3場 ノンベルク修道院 ♪《マリア》：シスター達

シスター達の悩みの種、見習いシスターのマリア。心配したり、困ったり、それでもかわいいマリア・・・とシスター達は歌います。

### 第4場 トラップ家の居間 ♪《ドレミの歌》：マリア、トラップ家の子ども達・（コーラス）

院長のすすめでトラップ家の家庭教師となったマリアは、「歌なんて歌わないもん。」と言う子ども達に、最初の授業「歌のレッスン」を行います。

### 第5場 トラップ家の庭 ♪《もうすぐ17歳》：ロルフとリースル・（ダンス）

長女のリースルはもうすぐ17歳。電報配達でロルフとの淡い初恋に胸をときめかしています。二人は、夜トラップ家の庭で愛を語ります。歌とダンスで表現します。

### 第6場 マリアの部屋 ♪《わたしのお気に入り》：マリアとトラップ家の子ども達・（コーラス）

ピカピカ、ゴロゴロ・・・雷が鳴る夜、子ども達はマリアの部屋にかけこんできます。こわい時・さびしい時には「何か楽しいことを考えるの。」と好きなものを次々に思い浮かべます。

### 第7場 トラップ家のテラス ♪《愛がつづくには?》：マックスとエルザ ♪《サウンド オブ ミュージック コーラス》： トラップ家の子ども達・トラップ大佐・マリア・（コーラス）

トラップ大佐は、ウィーンから婚約者のエルザを伴って帰ってきました。友達のマックスは二人の恋の行方を心配してエルザと、《愛がつづくには?》をデュエットします。そこへマリアが作った部屋のカーテンの遊び着で子ども達が賑やかに帰ってきます。その様子にトラップ大佐は怒って、マリアに修道院へ帰るように言い渡します。そのとき家の中から聞こえてきた美しいハーモニー・・・。トラップ大佐は、それがエルザを迎えるための子ども達の歌声であり、マリアがこの家に歌声を呼び戻してくれたことを知りました。そして、いつしかマリアと一緒に歌い出します。

### 第8場 トラップ家の居間 ♪♭《ひとりぼっちの羊飼》：ひつじ座

カルツブルグ音楽祭の出場者を捜しているマックスは、候補にひつじ座を連れてきて、トラップ大佐やエルザ・子ども達に紹介します。ひつじ座のメンバーが元気に歌い・踊ります。

### 第9場 トラップ家の居間 ♭《ダンス：グランドワルツ、レンドラー》： パーティーのお客様・ダンサー達 ♪《さよなら ごきげんよう》：トラップ家の子ども達

エルザのためにパーティーが開かれました。オーストリアを愛するトラップ大佐は、国旗を掲げます。ドイツに併合されるという時勢を表す不穏な空気にも子ども達はお構いなく、初めて出るパーティに夢中。クルトは、マリアにダンスをねだって一緒に踊っていると、トラップ大佐が現れてクルトと代わります。途中マリアは、不意に言葉では表せない感情になり、赤らめた顔をブリギッタ達に指摘されてしまいます。そんな雰囲気割って入ったエルザは、子ども達の歌をリクエストします。《さよなら ごきげんよう》の歌にマックスは、カルツブルグ音楽祭の目玉になると大喜び。一方マリアは、トラップ大佐への思いに戸惑い、一人黙って修道院へ帰る決心をします。

### 第10場 ノンベルク修道院長の部屋 ♪《朝の賛美歌・すべての山に登れ》： シスター達・院長

修道院へ帰ったマリアは、自分の気持ちを院長に話します。「ここは逃げ場所ではありません。あなたの道を自分で探さない。」と院長に励まされます。問題に立ち向かっていくようにと、《すべての山に登れ》の歌で諭されます。

## 第二幕

### 第1場 トラップ家のテラス ♪《ひとりぼっちの羊飼》：トラップ家の子ども達 ♪《わたしのお気に入り》：トラップ家の子ども達・マリア ♪《それはとめられない》：トラップ大佐・エルザ・マックス ♪《なにかよいこと》：トラップ大佐・マリア

マリアがいなくなって、子ども達はしょんぼり。そこへ帰ってきたマリアが子ども達から最初に聞いた言葉は「パパがエルザさんと結婚することになったの。」マリアの胸に重いものが広がりました。一方エルザは、パーティーの夜以来、大佐の胸に育っていたマリアへの愛が確かなものとわかり、物の見方が違うことを知りウィーンへ去ります。トラップ大佐とマリアはお互いの気持ちを確かめ合って、結婚の許しを子ども達に求めます。もちろん子ども達は大賛成！

### 第2場 修道院の回廊 ♪《行列聖歌・マリア》：シスター達

二人の結婚式は、修道院で院長やシスター達の暖かい祝福を受けて厳粛に行われました。そして二人はハネムーンに出かけました。

### 第3場 提督の部屋

「ナチスドイツの旗を掲げていないのは、あの家だけだ。」と提督を始め長官達は、トラップ大佐をナチスドイツに忠誠を誓わせようと話し合います。

### 第4場 トラップ家の居間 ♪《ドレミの歌》：マリア・トラップ家の子ども達

ハネムーンの留守中、子ども達はマックスをリーダーにカルツブルグ音楽祭へ出る準備をしていました。帰ってきた大佐を待っていたのは、ドイツ軍からの召集令状でした。祖国オーストリアを愛する大佐にとってただ一つ残された道は、亡命でした。マックスの独断に怒っていた大佐も、音楽祭への出場を利用して国外脱出を試みよう決心します。

### 第5場 コンサートホール ♪《ドレミの歌》：トラップ一家 ♪《エーデルワイス》：トラップ大佐・マリア・子ども達 ♪《さよならごきげんよう》：トラップ一家

トラップ一家のステージは最後でした。1曲目は全員で、2曲目は祖国オーストリアへの思いを込めて《エーデルワイス》をトラップ大佐が歌います。アンコールに呼んで《さよならごきげんよう》を歌いながら一人・二人と袖に去っていく子ども達・・・。審査結果の時間を巧みに稼いだ司会マックスのおかげで、トラップ一家はコンサートホールから脱出に成功します。

### 第6場 修道院の庭 ♪《すべての山に登れ》：院長・シスター達・（コーラス）

修道院へ逃げ込んだトラップ一家に、追跡の手は執拗にやってきます。追っ手に加わったロルフはリースルに気がつきませんが、「ここには誰もいません。」と見逃します。「山は汝の前に扉を開くでしょう。」修道院長の祈りを受けて、トラップ一家は、自由の国スイスをめざして力強くアルプスの山を越えていくのでした。

注) ♪《歌》；歌う人  
♭《踊りの曲》



(演出部：山本正子、三輪禎子)

## キャスト紹介

相磯 君絵 (シスター)	佐治 千尋 (シスター)
相磯 岳史 (ひつじ座)	佐藤 佳代 (ブリギッタ)
秋山 久美子 (コーラス隊)	清水 志保子 (ひつじ座)
安東 恵美 (ひつじ座)	清水 美恵子 (シスター)
伊藤 公一 (トラップ大佐)	白川 博子 (シスター)
伊藤 敬子 (シスター)	白川 優子 (マルタ)
井上 久美 (シスター)	鈴木 文雄 (ひつじ座・司祭)
上田 恭子 (シスター)	鈴木 真奈 (エルザ)
上田 徹 (ひつじ座)	鈴木 裕一 (シュライバー提督)
植田 久 (マックス)	清野 友規 (ひつじ座)
蝦名 広香 (コーラス隊)	清野 三千子 (シスター)
大野 優子 (シュミット)	上林 やよい (マリア)
小野 寺 邦江 (ひつじ座)	田口 彩 (ひつじ座、シスター)
小野 寺 恵江 (シスター)	田口 雅之 (ひつじ座)
河西 正子 (シスター)	谷山 いつみ (ルイーザ)
河西 美保子 (グレーテル)	谷山 洋子 (シスター)
春日 貴代志 (ひつじ座)	津田 愛子 (シスターベルテ)
加藤 富美子 (シスター)	津田 淳子 (シスター)
神谷 浩美 (シスター)	坪上 義子 (修道院長)
木村 智子 (リーズル)	戸谷 さほ (コーラス隊)
工藤 傑史 (ひつじ座)	戸田 尚幸 (クルト)
栗山 和宏 (フリードリッヒ)	戸田 玲子 (シスター)
小島 訓子 (シスター)	長田 翔平 (ナチ下士官)
小島 諭 (ナチ下士官)	橋本 明子 (ひつじ座、シスター)
小林 憲治 (ナチ中尉)	福井 滉 (ひつじ座)
小林 美保 (ひつじ座)	福井 晴美 (シスター)
小林 竜一 (ツェラー長官)	藤江 真二郎 (ナチ下士官)
近藤 さと子 (ひつじ座)	藤江 もと子 (シスター)
近藤 由紀子 (シスター)	三輪 禎子 (ひつじ座、シスター)
近藤 由里 (ひつじ座)	盛生 桂子 (シスター)
坂井 照子 (シスター)	盛生 正子 (ひつじ座)
坂井 智明 (ロルフ)	行友 宏文 (フランツ)

## 若竹ミュージカルオーケストラ紹介

### 指揮者：広井 隆

赤澤 秀行 (Trp)	立山 直子 (Piano)	
安部 周子 (Vn)	田中 博 (Vc)	
飯島 友香里 (Hr)	多奈田 紗彩 (Vn)	
石井 温子 (Cb)	谷口 良二 (Trb)	
井上 理紗 (Cb)	丹澤 絵美 (Vn)	
植田 陽子 (Vn)	戸邊 安代 (Trb)	
大串 清文 (Cb)	長井 由香里 (Vn)	Vn : ヴァイオリン
大串 千代 (Vn)	鳴瀬 絵理 (Cl)	Va : ヴィオラ
大野 晴子 (Vn)	鳴瀬 潤 (Cl)	Vc : チェロ
奥田 和広 (Tuba)	西田 みゆき (Hr)	Cb : コントラバス
黒澤 宏輔 (Perc)	平野 知佳子 (Vn)	Fl : フルート
小松 拓巳 (Va)	淵本 晶子 (Vn)	Ob : オーボエ
金 有紀 (Vn)	正月 宏和 (Perc)	Cl : クラリネット
佐藤 寛治 (Fg)	松山 桂子 (Trp)	Fg : ファゴット
佐藤 玲子 (Fl)	森永 佳代 (Vn)	Hr : ホルン
島田 栄子 (Vc)	山本 正子 (Key)	Trp : トランペット
清水 沙織 (Ob)	吉田 久恵 (Perc)	Trb : トロンボーン
鈴木 宏治 (Cl)	吉羽 顕人 (Perc)	Tuba : チューバ
高瀬 薫 (Vc)	鷺頭 まり子 (Vc)	Perc : パーカッション
高田 啓太 (Trp)		Key : キーボード
		Piano : ピアノ

## スタッフ紹介

台本・演出・指導	：工藤 傑史・安東 恵美・井上 久美・三輪 禎子・山本 正子・根本 友己 大野 優子・伊藤 敬子・小島 訓子
舞 台 監 督	：武川 善俊
大 道 具	：黒木 辰男 (製作指導)・小島 詔・お母さん達
照 明	：(株) ライトスタッフ
音 響	：(株) ユー・エム・エムサウンドシステムズ
衣 装・小 道 具	：坂井 照子 (衣裳プラン)・小林 美沙子・春日 三枝子・お母さん達
記 録	：若竹ミュージカル映像製作部・村上 卓郎 (ホームページ担当) 相磯 嘉雄・近藤 和子
運 営 委 員	：安東 恵美・伊藤 敬子・井上 久美・植田 千代子・大串 清文・大野 優子 河西 正子・工藤 傑史・小島 訓子・小林 美沙子・近藤 由紀子・清水 美恵子 鈴木 文雄・谷口 良二・津田 淳子・根本 友己・藤江 もと子 三輪 禎子・山本 正子
協 力 ス タ ッ フ	：木村 希代子・栗山 和枝・小林 幸子・小林 春江・佐藤 順子・鈴木 勝子 高橋 佳子・田口 みどり・坪上 礼子・長田 菜穂美・行友 喜代子



広井 隆 (指揮者)

東京芸術大学指揮科卒業

三石 精一、金子 登、エルヴィンボルン、渡辺 暁雄、山田一雄諸氏に師事。

1974年、安宅賞受賞、日本指揮者協会会員、日本演奏連盟会員。

1992年より、東京学芸大学附属養護学校(現 附属特別支援学校)に於ける東京学芸大学管弦楽団「音楽教室」で指揮を執られ、児童、生徒、保護者より絶大な信頼をよせられている。

1996年より、『ウェスト・サイド・ストーリー』、『サウンド・オブ・ミュージック』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』で若竹ミュージカルの指揮ならびに指導をいただいている。

# Viva 若竹ミュージカル！

## Part V

若竹ミュージカルにめぐりあうみちのり

18回卒 津田愛子・淳子

昭和38年(1963年)4月、愛子が竹早の若竹学級に入学を許可され、母子で通学を許可され、母子で通学をはじめたものの、何もできず、じっとしていることさえできない愛子、そのとき担任の高野信寛先生が毎日毎日アコーディオンで、童謡、小学校唱歌を根気づよく教えて下さいました。現在もほとんどの歌詞、メロディをしっかりおぼえています。一方父母とも関東大震災と戦争、戦争の激動時代のため音楽とは、まことに縁遠く英語の禁止、毎日耳にするのは軍歌の時代で音楽らしきものを学ぶのは厳しく制約されて育ちました。愛子と一緒に竹早に通っているとき、国松五郎兵衛先生がNHKで知的障害児の教育について、愛子たちをつれて、日本で初めて「たのしい教室」が放映されました。それを契機に音楽に対する願望が強くなってきました。愛子の高等部卒業後、若竹会の余暇活動の動きが強くなり、14年前若竹ミュージカルが産声をあげました。それ以来母子一緒にメンバーに入れていただきました。広井隆先生の指揮、工藤傑史先生、若竹ミュージカルのリーダーのご教導、ご支援をいただき、公演を重ねることができました。年を加えつつありますが生涯の生き甲斐として、若竹ミュージカルのメンバーとしてつづけていけることを願望しております。

18回卒 坪上義子

院長らしくなるように、がんばります。

坪上礼子

若竹ミュージカルに参加して十年余、指揮、演出の先生方の厳しい御指導の下、回を重ねる毎に、卒業生は舞台の呼吸を覚え、親達はプロ並みの働きをし、合わせて下さるオーケストラ、励まして下さる支援の方々等、沢山ののお力添えで公演が続けられています。勿論“常に穏やか”とはいきませんが、幕が下りた時、胸一杯に拡がる熱いものは。共通のものです。

長い間に、大切な事が沢山みえてきました。親子共に年をとりましたが、いつ迄も関わっていたい、いられたいと心から思っています。

「ルネこだいらと長崎公演にむけて」

21回卒 植田久

長崎の友達 はじめまして。私は今回の『サウンド・オブ・ミュージック』でマックスを演じる植田久です。東京小平 九州長崎での公演とてもうれしく、これまで新潟公演ではトラップ大佐を、静岡公演の「屋根の上のヴァイオリンひき」ではテヴィエというまじめな親父でした。今回のマックスは 私には苦手なキザな男を演じなければなりません。「愛がつづくには」「それはとめられない」など心をこめて唄いたいと思います。トラップ大佐の友人としてまたある時はドイツ海軍基地ヘトラップ大佐を出頭させねばという つらい役も、難しい表現がたくさんで苦勞しています。でもガンバります。皆さんぜひ友達になりましょう。

「ルネこだいらと長崎公演にむけて」

植田千代子

新潟、静岡遠征公演から数年が経ちました。メンバー共々、加齢と貫禄が加わりました。小平と長崎、今年のスケジュールは厳しい暑い夏を皆で上手に乗り切るにかかっているようです。気力は十分の中ですが体調調整に心しなければなりません。会社のお仕事と余暇のミュージカルの楽しみを両立させること、年を重ねるたびに厳しいものを感じていますが、バランスよく参加できるよう努力したいと思っています。

「長崎公演に向けて」

25回卒 小林竜一・美沙子

『サウンド・オブ・ミュージック』は3度目です。今度は長官の役をオーディションでもらいました。長官は強くて正しいから大好きです。でも「強い人は威張ってはいけない」とお母さんに注意されたので、セリフを怒鳴らないように言うことを一生懸命練習しました。怒鳴る方が易しいけど僕も怒鳴られるのは嫌いです。みんな前とは役が変わったので、前に自分がやっていた役を今度は違う人が上手に出来るか心配です。ほかの人の役だったのを今度は自分がやるので前のビデオを見ながら考えました。ほかの人も考えて上手になりました。踊りもたくさん練習したので上手です。前とは違った新しい考えが出て面白いです。前より上

注：Viva 若竹ミュージカル Part Iは97年公演プログラムに、Part IIは2001年公演プログラム、Part IIIは2005年公演プログラム、Part IVは2006年東久留米公演プログラム、Part Vは2006年公演プログラムにそれぞれ掲載

手でないといけないのでみんな頑張っています。それに長崎にも行くのだから長崎の人に見てもらうのがうれしいです。長崎は遠いです。海外旅行に行く気がします。パンフレットに書いてあるのを見て「長崎まで行くの？」とみんな驚いています。ミュージカルの仲間と飛行機に乗るのが楽しみです。長崎の仲間と一緒にうたうのが楽しみです。たくさん観にきてくれると良いなあ。よろしくお願いします。

25回卒 田口雅之

ぼくは、小平と長崎の公演がきまり、とてもうれしいです。ひつじ座をがんばります。

田口みどり

久しぶりの『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演です。出演メンバーも入れ替わり、新しいひつじ座という役柄も出来、皆一生懸命練習にはげんでいます。シスターのコーラスもオーケストラに合わせ、広井先生の厳しくもやさしい御指導で、聞きごたえのある場面をと、練習場に響きわたっています。この結果が小平公演や長崎公演にいらした皆様に楽しんでいただける様、祈っています。

25回卒 木村智子

「長崎公演が決定です！」これを聞いた時から長崎のことばかり考えるようになりました。いつでもどこでも「長崎」のふたつの文字が気になります。私は長崎は二度目ですが、港の見える高い丘の上のホテルから眺めた夜景の美しさは今でもはっきり覚えています。私達の学校は海に近くはないので、まいにち広い海や大きな船を眺めることのできるみんなを、とっても羨ましく思っています。ブリックホールは私の大好きな宮崎信恵監督が「無名の人、石井筆子の生涯」の映画を初めて上演したホールと聞いて、同じホールで長崎のお友達と一緒に公演できるなんて夢みたいです。宮崎監督も監督のお友達も小平公演に来てくださるので今からとっても嬉しくてなりません。

木村希代子

長崎の皆さまお元気ですか。どんな毎日をお過ごしでしょうか。東京から遙か西の長崎へ想いを馳せながら書いております。私達の「若ミ」も今年で14年を

迎え、今までの各地での公演や練習の成果を皆さまに見ていただきたくやってきました。同じ工藤先生の下で一生懸命がんばっている皆さんが、どんなステージをみせて下さるのかもとっても楽しみにしています。一生懸命がんばって今までの練習の成果を互いに見せ合い、自分たちがステキに楽しんでいる姿を見て頂き、一般の方々の心の中に 障害児・者を見つめ直してみようという気持ちが広がることに少しでも役立てればとても嬉しいことです。

「長崎のみなさんへ」

25回卒 近藤さと子

わたしは九州に行くのは はじめてです。どんなところかなあとたのしみにしています。ミュージカルでは「ひつじ座」です。とてもたのしいダンスですから見て下さい。

近藤和子

長崎に行ったら、写真を沢山撮ること。おいしいものを食べること。東京にないものを買うこと。そしてミュージカル公演を大成功させて長崎の方とお友達になること。長崎の方言を一つはおぼえたいと、楽しみがいっぱい、胸がワクワクしています。

「小平・長崎公演に向けて」

27回卒 上田徹

前回の『サウンド・オブ・ミュージック』では下士官役でしたが、今回はダンスチーム「ひつじ座」の団長役です。大きな口ひげに、王冠をかぶって出ます。元気よくがんばります。よろしくお願いします。

上田恭子

養護学校卒業後、生涯学習の場として親子で若竹ミュージカルに参加して13年間、先生はじめ大勢の方のご指導と励ましを頂きながら今日まで続けてきました。月2回の練習の積み重ねで培ってきた成果が今回の公演を通じて、ミュージカルの素晴らしさや歌や踊りの楽しさ、そしてやればできるという自信をもって演じている姿を観て頂ければと思います。立派な舞台上、「♪ドレミの歌」、「♪すべての山に登れ」等の歌を、皆様方と一緒に合唱できることを今からわくわく心待ちにしています。又、これまでの関東周辺の

山梨・新潟・静岡の地方公演から、今回は遠く九州の長崎公演で、新たな出会いと思い出を心に刻めることが楽しみです。

## 「大好きなミュージカル」

27回卒 小野寺邦江

私はミュージカルに行くのが楽しみです。歌もおどりも大好きです。家でもお母さんといつも歌っています。ミュージカルの中の歌はみんな好きだけれど「私のお気にいり」と「ドレミの歌」「エーデルワイス」をよく歌っています。今度はかわいいひつじさんになって歌いながらおどります。「17才」もおどります。たくさんのお客様に見てもらえるとうれしいです。八月には長崎のお友達と一緒に歌います。長崎のお友達に会えるのが楽しみです。長崎の学校は海の見えるところもきれいな所ですと先生がお話してくれました。私達の学校もみどりがいっぱいで庭の広いきれいな所です。長崎のお友達の練習もビデオで見ました。私達も練習頑張っています。

## 「若竹ミュージカルに支えられて」

小野寺恵江

若竹ミュージカルにご縁を頂いて早十四年、練習で仲間と一緒に過ごす時は私と娘にとって心が安らぐ唯一の場になっています。皆で一つのものを作り上げて行く事の素晴らしさ、子供達がいろいろな役に積極的に挑戦しようとする自信を身につけている事にも喜びを感じます。八月には長崎公演をさせて頂く事になりました。娘は長崎は遠い所と言っても理解出来ず、知人に会うと長崎に見に来てネと声をかけています。長崎は遠くて無理ネ、と言われてキョトンとしています。共通の目標、夢に向かって一緒に歩いて行ける事は嬉しい事です。このご縁を大切に共々成長させて頂ければと思います。この活動を支えて下さる方々のお客様総ての方々に感謝申しあげます。

## 「みんなでおどろう」

27回卒 近藤由里

ひつじ座のダンスを何回も練習しました。むつかしかったけど一生けんめいおぼえました。ながさきでもがんばっておどりたいと思っています。みなさんもいっしょにおどってください。友だちになりたいです。

## 「長崎へ」

近藤由紀子

若竹ミュージカルは、活動を始めて14年になり、今まで沢山の方々に公演を見て頂いてきました。私達へのご支援は大変心強く皆の励みになっています。メンバー達は働きながら、月2回の練習を楽しみに学校に集まってきます。卒業して何年たっても、先生や友達とミュージカルを通して学ぶことの幸せを思い、このつながりを大事にしていきたいと思っています。長崎にも音楽が大好きで、私達と同じような活動をされている方々がいらっしゃることを承知していましたが、こんなに早く共演出来る日がくるとは思っておりませんでした。すてきなチラシやチケット販売、又、私達の経験ない大きなホール等々、色々準備して頂き心から感謝申し上げます。ルネ・こだいらでいただく声援に力を得て長崎に参ります。舞台では、一人一人が一生懸命練習を積み重ねてきた成果を出し、のびのびと演じて、皆様の心にひびく作品になるように努めたいと思います。

## 長崎の友達の皆様へ

27回卒 鈴木真奈

初めまして、私の名前は、「鈴木 真奈（まな）」です。男爵夫人の「エルザ」を演じます。長崎へ行くのは初めてです。会える日を楽しみにしています。仲良くして下さい。ミュージカルを頑張ります。

## 長崎のみなさん、今日は

鈴木文雄

私は、ひつじ座のひつじのお父さん役の「鈴木 文雄」と申します。娘の「真奈」と共に練習に励んでいます。司祭の役も勤めます。よろしく申し上げます。茂木の白魚の「おどり」が懐かしいです。現役時代に、長崎造船所へ、進水式などで何度かお邪魔しました

## 「ミュージカルが大好き」

27回卒 盛生正子

歌とダンスが大好きです。セリフも大きい声でいえる様になりました。練習の時お友達皆にあえてうれしいです。いつもお母さんと一緒に出られてうれしいです。今日は作業所の皆と青年学級のお友達、近所のおばさん、お姉さん達が沢山見に来てくれます。私はひ

つじのママさんになります。がんばります。8月には、長崎のお友達と一緒に出られるので楽しみです。

## 「若竹ミュージカルは私達親子の生きがい」

盛生桂子

生きがいは、いい場所に身を置くことだそうです。正にこの若竹ミュージカルは、その通りです。先生方のあたたかいご指導、すてきなオーケストラ、沢山の協力者、母親達、家族の協力とすばらしい環境に身をおかせていただいている私達は本当に幸せです。私の人生も予期せぬ事ばかり起き悲しみや苦しみをのりこえてきた様に思います。この活動がどんなにささえになった事か、いうまでもありません。これからもたった一度の人生親子そろって輝いて生きたいと思います。そして劇中のマリアの社会的、行動的、かつ決断力、すべて前向きに生きた人生をお手本に！！生きてゆくという事、それは山に登る事、悲しみや苦しみをこえて夢をつかむ事、夢こそは、生きるあかし・・・公演最後に歌う時、いつも涙、涙で胸がつまります。この感動が会場の皆様にお伝えできたら「この子が世の光に」と祈り願いつつ。出会いと継続は大きな力です。今はすべてに感謝！！

## 「長崎の友だちへ」

30回卒 伊藤公一

僕が長崎に行くのはこれで2回目です。僕は今、思っています。長崎に落とされた原爆が沢山の人をすごいやけどで死なせたし、苦しかったし、水が欲しかった事です。僕はトラップ大佐のセリフの勉強で、ナチスドイツに苦しめられている人の事を本で見ました。戦争は反対です。絶対に戦争はやらない都市にしたいです。それを教えてくれたのが長崎です。僕は若竹ミュージカルで14年ミュージカルを続けてきました。友だちと学校で歌を練習したり、お芝居をするのが楽しかったから、仕事もがんばりました。トラップ大佐の役でセリフに気持ちを込めるのが難しかったです。長崎の仲間といっしょに『サウンド・オブ・ミュージック』を手をつないでいっしょに歌いたいです。

## 「長崎の皆様へ」

伊藤敬子

わくわくコンサート5周年誠におめでとうございま

す。この節目の時に皆様とご一緒できる機会を与えられた事を心から感謝いたします。公一が中学生の時に初めて母子で長崎を訪ねました。末娘に知的障害のふたりの兄達の理解を深め、世の中には不条理な出来事で辛い思いをしている方々が沢山いらっしゃることを体感する、広島・長崎・水俣への行脚の旅でした。異国の風情を感じつつ、原爆の残した傷跡を心に刻みました。トラップ大佐がエーデルワイスの花に託した祖国への愛、美しい自然とスピリッツを永久に残したい願いが長崎の地で、平和への祈りと共に皆様の心に届くように一生懸命に舞台を務めます。

## 「羊座の歌手！」

30回卒 清野友規

ぼくは、羊座の歌手で「羊飼いの歌」を歌います。高い声で歌う練習をしました。ダンスの皆さんがノリノリで踊れるように、元気良く、楽しく歌います。8月には、長崎のお客様の前で歌います。長崎の新しいお友達と一緒に歌ったり、ダンスが出来ることを、今から楽しみにしています。

## 「成長の糧」

清野三千子

2000年10月、若竹ミュージカルが『サウンド・オブ・ミュージック』を公演しましたが、その時のプログラムに私はこんなことを書いておりました。息子は当時、思春期の真只中、情緒不安定で、声も出ない状態でした。その息子と犬の散歩に行き、林の中で、木漏れ日を浴びながら「一人ぼっちの羊飼い、レイオル、レイオル・・・！」と練習をした情景を書いていたのです。最近、やっと、息子は暗い思春期のトンネルから抜け出しつつあり、今回の公演で「羊飼いの歌」を歌う事になり、この歌に不思議な縁を感じています。息子の為にと参加したこの活動に、私の方がすっかり虜になり、色々な意味での人間的成長の糧を得て来たと思うのです。人は障害や年齢に関係なく、努力により、その人なりの歩みで成長出来ると実感できたのも、このミュージカル活動です。本日の公演の後、8月、長崎の皆様と共演できることになりました。同じような活動が各地に生まれることがこの活動の大きな一つの夢でもありました。長崎の皆様のご尽力によりその夢が叶います。心から感謝申し上げております。本日は、

皆様お出掛け頂き有難う御座いました。

「ミュージカルが大好き」

31 回卒 相磯岳史

長崎公演で皆さんにお会い出来るのを楽しみにしています。どうぞよろしく願ひいたします。

「サウンド・オブ・ミュージック “夢”」

相磯君絵

遠い異国というイメージのある、すてきな街、長崎へ若竹ミュージカルに同行出来ることを嬉しく思います。長崎の皆様のおかげで同じ舞台上上げれることをとても嬉しく心から感謝しています。一日も早く皆様にお会いしたい気持ちでいっぱいです。どうぞよろしく願ひいたします。

31 回卒 小島諭

ルネこだいらと長崎ブリックホールで若竹ミュージカルの『サウンド・オブ・ミュージック』を見に来てくださったおきゃくさま、ありがとうございます。ぼくは第1幕のパーティでダンスをおどります。そして第2幕ではナチの下士官の役をします。上手にできるように練習をしました。楽しんでください。

「若竹ミュージカルの夢」

小島訓子

長崎という土地は、地形も近代の歴史も私の生まれ故郷である呉によく似ています。そんな関係か長崎に行ったときにほんのりと懐かしさを感じました。その長崎で若竹ミュージカルの公演ができるなんて夢のようです。眠って見る夢は実現不可能かも知れませんが、若竹ミュージカルの夢はゆっくりではあるけど着実に実現に向かって進んでいます。

♪夢こそは生きるあかし〜。それは私たちが真剣に祈り願っているからだと思います。そしてみなさんが応援して下さるから実現できると思います。今回の東京、長崎での公演はそういった私たちの願いと皆様の応援のお陰です。本当にありがとうございます。これからも私たちは元気で楽しく、ミュージカル活動を続けて行きたいと思います。後に続く後輩のためにも……………。

「楽しいミュージカル」

31 回卒 坂井智明

私は今年で32才になります。学校を卒業してからずーっとミュージカルに参加しています。『サウンド・オブ・ミュージック』、『ウエスト・サイド・ストーリー』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』でいろいろな役をしました。今回のロルフの役は17才です。いつまでも若々しくしたいと思います。リーズルと顔を見合ってダンスをすることが一番楽しみです。上手に踊れるように練習しています。歌も頑張ります。

「息子のお陰」

坂井照子

私の息子はダウン症の32才です。とにかく一人の社会人として世に出すように夢中で子育てをしてきました。成人して社会人になった今、息子のお陰でこのミュージカルと出会い、素晴らしい舞台に立たせていただきま、いろいろな方々と出会う事が出来ました。ほんのサポートとして出演していたつもりが今では私も「女優」?楽しく演じています。ヴィヴァ若竹ミュージカル 息子のお陰です。

「楽しみにきいていただきたいです」

31 回卒 藤江真二郎

長崎公演までにたくさんやるがあります。全部の練習をしっかりとやらねばなりません。歌うときはちゃんとやって合わせていきたいです。楽しみにきいていただきたいです。

「いつも前向きで」

藤江もと子

鎖国時代の西洋文明の窓口、弾圧にめげず守られたキリスト教信仰、その天主堂をも無惨に破壊した原子爆弾、京都に生まれ育った私にとって「長崎」は訪れてみたい特別なところでした。始めて長崎の地に立ったのは今から50余年前、高校の修学旅行の時です。夜こっそり宿にチャンポンの出前をとり、友だちと分け合って食べたのも懐かしい思い出。その長崎の皆さまと、今回同じステージに立ち歌えることになって本当にうれしいです。若竹ミュージカルが最初から取り上げ、繰り返し学び続けてきた《サ

ウンド・オブ・ミュージック》、困難に耐え愛と信念を守り前向きに生きるトラップ一家の物語こそ、この長崎の地で上演するに誠にふさわしいものと感じられます。若竹ミュージカルもいつも前を向いて挑戦し続けて来ました。初演以来ずっとシスター役の私たち母親も、子どもたちに負けぬよう常にハードルを上げ精進を重ねています。確かに年齢も重ねましたが、いつも若々しい気持ちで居られるのは若竹ミュージカルのお陰にちがいません。

「小平公演と長崎公演 “ひつじの娘役” で頑張ります」

31 回卒 小林美保

長崎はクラスのみんなで工藤先生にあいに行きました。工藤先生はミュージカルを教えて下さる先生ですが、この年は長崎附属養護学校の先生でした。長崎ブリックホールで公演ができることは夢のようです。とても楽しみです。長崎のみんなと一緒に歌いたいです。

「継続は力なり」

小林春江

公演が間近になると旅行に出掛けるかのような大荷物を引いたり背負ったり、衣装やクツで大量です。衣装替えの練習・舞台とオケ合わせも始まり、練習風景も活気で漲っています。オケの響き卒業生のソロ、お母様の美声もすごい。

「継続は力なり」と伝わって来ました。'07若竹ミュージカル公演と長崎公演では皆さまとお会い出来ることを楽しみにしております。

「長崎の友だちへ」

31 回卒 谷山いづみ

長崎の友だちと共演できて、とてもうれしいです。私はむすめのルイーザの役をやります。一生けんめい練習しましたのでみてください。

谷山洋子

今回、長崎の方々と共に演じられることを楽しみにしております。若竹ミュージカルに親子で参加して、月2回の練習やみんなで作りに上げていくこと、舞台に出られることなど楽しんでおります。人生いろいろなことがあります「すべての山にのぼれ」の歌

詞を思い出し頑張ってきた様に思います。公演を観に来て下さった方々に感動して頂ける様、そして、元気になって頂ける様に心を込めて歌いたいと思っています。よろしく願ひいたします。

32 回卒 栗山和宏

長崎のみなさん こんにちは

ぼくは毎日デニーズで仕事頑張っています。歌が大好きだからミュージカルも頑張っています。練習もみんなと一緒に楽しいです。

本番で舞台上歌う時は一番楽しいです。

長崎の皆さんも頑張ってください。

32 回卒 小林憲治・幸子

同じ目標に向かって長崎、東京、それぞれで練習してきたことが長崎の舞台でひとつのハーモニーになる、とても素晴らしいことです。参加できることを嬉しく思い、長崎の皆さんにお会いできるのをとても楽しみにしています。

「小平そして長崎公演」

32 回卒 河西美保子

ミュージカルのれんしゅうがすぎです。みんなとお話するのがうれしいです。

うたやせりふも大きなこえでいっしょうけんめいにやります。しっかりと『サウンド・オブ・ミュージック』をがんばります。おぼえるようにがんばります。ぶたいで大きなこえでがんばっていきたいです。ドレミのうたで元気よくおどりたいです。じょうずに言いたいです。長崎もたのしみです。

河西正子

観客として客席にいた大きなホールの舞台に今度は自分が立つという経験を、今日ルネこだいらで味わうことが出来る喜びにひたっています。今や合言葉みたいに仲間内で飛び交う言葉「私は女優よ」。この大それた一言はしかし魔法のように私を変えるのです。他人に見られることを意識し、より若々しく美しく(?)見えるように姿勢も歌もセリフも表情も気を配ります。衣装をつけライトを浴びる舞台は夢の世界。公演の度にこの素晴らしい高揚感をかみしめています。14年前に生まれ信じられないさまざ

まな軌跡を記して、今若竹ミュージカルは大きくはばたき余暇活動から生涯活動となりました。ミュージカルがあるから、みんなに会えるから仕事がんばれると本人は張り切り、私は頭も体も使い刺激をたくさん受けて元気でいられます。仲間と共に一つの物を作り上げ親子で輝けるのは涙が出るほどうれしいことです。小平の後はいよいよ長崎公演、昔からあこがれていた街でどんな出会いがあるでしょうか。わくわくしています。

---

34回卒 鈴樹裕一・勝子

10年位前に旅行で長崎に行った事があります。坂が沢山あった事を覚えています。思い出の場所で公演をすると云うのでとても楽しみになりました。今回はナチ軍団の役をやります。長崎の人達が楽しんでもらえるようにがんばりたいと思い長崎の公演を成功させたいと思っています。がんばろう！！

---

「サウンド・オブ・ミュージック」

34回卒 上林やよい

今回長崎で公演が出来る事がとっても嬉しく思います。今からそちらで公演ができることを楽しみにしております。たくさんの人達に私たちの舞台を観ていただきたいと思っております。私はマリア役を演じます。長崎の皆さんに喜んでいただけるようなマリア役を演じたいと思っております。また、長崎の人たちと今回一緒に舞台立てることを楽しみにしております。

---

「印象深い長崎でサウンド・オブ・ミュージックを」

35回卒 春日貴代志・三枝子

今、長崎での公演に向けて、練習に、準備に取組んでいます。長崎は以前に、家族旅行で、訪れたことのある、平和への祈りと異国情緒あふれる様々な史跡の多い、とても印象深いところでした。また、演じられる『サウンド・オブ・ミュージック』は私たち親子が、初めて若竹ミュージカルに参加した年に公演された思い出深い演目です。参加当初はとまどいもありましたが、先生方や先輩、先輩のお母様方に、優しく受け入れていただき、何とかついて行くことができ、公演での感激を味わいました。今

回はその思い出深い『サウンド・オブ・ミュージック』への2回目の取り組みです。前は無かった、ひつじ座の役となり、ダンスの場面が多く、楽しく、喜んで練習をしています。印象深い長崎の地で、迎えて下さる長崎の方々の下で、思い出深い『サウンド・オブ・ミュージック』の公演ができることを楽しみにしています、そして、がんばります。

---

「長崎の友だちへ」

35回卒 白川優子

私は長崎のハウステンポスへ行った事があります。平戸やオランダ坂や出島や稲佐山の夜景がきれいでした。グラバー邸、平和公園へ行きました。戦争はいやです。一緒に歌を歌いましょう。

---

白川博子

何年か前に、家族で、ほんとに短い休暇を利用して導かれる様に、長崎への旅に出ました。平戸でのカトリック教会と瑞雲寺のツーショット。佐世保、孔子廟、平和公園とまわり、稲佐山からの長崎港を見ているうちに、東京生まれの東京育ちの私にはわからない苦しみ、長崎の人々には有ったのに、何と美しい景色だろうと。親子で自然体で生きていこうと、とても気がらくになりました。一緒に歌いましょう。

---

「若竹ミュージカルの公演に向けて」

36回卒 行友宏文

大きな声を出す練習をします。歌をうたいます。目標を達成したいです。

---

行友喜代子

若竹ミュージカルに入れて戴いて、早や一年になるうとしております。練習の前日には、明日持つて行くものの用意をし、当日は、見たいテレビがあっても「帰ってからね」と私に言い、自分にも言い聞かせて出かけて行きます。そのような宏文の中にはミュージカルに係わることに對しての、しっかりした思いがあるのだろうと思います。(きちんと、口に出して表現はできないのですが)長崎公演が決まってからは、長崎のお友だちということはイメージできているのかどうかは分かりませんが、楽しみ

にしている様子が伝わってくる日々です。普段は、とても大きな声で話すのですが、意識すると小さな声になってしまいます。大きな声で話しかけてくる時を見計らい 練習をさせている毎日です。沢山の方のお世話になって、生かされている私達です。若竹ミュージカルで縁を戴きましたことに感謝をし、'07若竹ミュージカル公演・長崎公演が無事終わりますことを願うものです。

---

「初めての長崎公演」

39回卒 戸田尚幸

私は長崎の皆さんと会えるのがとても楽しみです。工藤先生から皆さんの「ドレミコンサート」のことを教えてもらいました。一緒にコンサートができることがとても楽しみです。私は7人兄弟の次男の役を先生方や先輩たちにセリフの事やアクションの事を教えてもらい一生懸命練習しています。長崎でもうまくできるかちょっと不安もあるけれど、せいいっぱい歌い演じます。

---

「ご一緒に歌える日を心待ちに」

戸田玲子

長崎公演のお話を、はじめて工藤先生から伺った時には思わず「わ～！」という歓声が起こりました。むか～し高校の修学旅行で行った緑と空の眩しい長崎の街が思い出されました。その長崎でミュージカルのお仲間とご一緒に…。なんて素敵な事でしょう。'05や'07の12年の軌跡コンサートプログラムの中で『アメリカ』のダンスをリードして下さったスマートな彩さんは卒業生の人気者。長崎の田口真弓先生のお嬢様とお聞きしてまた感激！音楽を通じて次々に素敵な出会いの輪が広がることにいつも感動しています。職場の上司の方にも暖かく見守って頂き本当に感謝です。あつーい暑ーい熱ーい夏めざしてがんばります。どうぞよろしく願いいたします♪

---

「長崎の友達へ」

39回卒 佐藤佳代

私達は、長崎で『サウンド・オブ・ミュージック』を公演します。そのために今、一月に2回学校で練習しています。今回は第2幕までやることになりました。今まで練習を積み重ねてきた成果を長崎で精

一杯出したいと思います。私達が学校で練習している「ドレミの歌」と長崎の友達が歌っている「ドレミの歌」を一緒に歌いたいと思います。8月19日に会えるのを楽しみにしています。

---

「長崎公演に向けて」

佐藤順子

今回初めて本州を離れ、長崎で公演できる喜びを感じます。これも長崎の方々の熱意とご協力のお陰だと感謝しております。『サウンド・オブ・ミュージック』の公演は2回目ですが、我が子は卒業して7年目なので初めての参加です。先輩達や支援者、オーケストラの方々と一緒に一生懸命に練習を積み重ねてきました。6月にミュージカルの舞台であるドイツとスイスに行ってきました。あの広大な牧草地帯と、鋭く聳え立つ山々の景色を思い出します。7人の子供達の育った時代は、現在のような平和な時代ではないのですが、自然に満ちた大地でマリアとすくすくと育っていつている姿を十分に演じられるように頑張っています。今回はオーケストラを含め、総勢100人で長崎にお伺いしますが、長崎の方々と共に演じるミュージカルを楽しみにしております。

---

「二つの夏の公演」

39回卒 清水志保子・美恵子

憧れだったミュージカルに入団して、4年目の夏を迎えました。今年の夏は大きな会場での公演が2回もあります。7月は小平公演です、大きな会場で、いつもの大学の芸術館の何倍もの広さの舞台で、2階席からは舞台が後ろのほうまで見通せます。みんなが主役のつもりでずっと演技をしていなくてはいけませんよと言う先生方の言葉がことのほか重く感じました。8月の長崎公演は小平よりもっと大きな会場です。きっと、ミュージカル史上最大の会場なのではないかと思うのですが、こちらは大変な準備を長崎の方々がほとんどして下さいました。私たちがすべきことは、精一杯練習して、力いっぱい演技をすることで、私達を迎えてくださった長崎の方たちのお気持ちに応えることだと思っています。小平と長崎公演、お客様に来てよかったと感じただけのように、心をこめて舞台を務めたいと思っています。それにしても、娘のダンス、私のコーラス、

何回練習しても??? 気合だけでは先輩たちに追いつきません。

41回卒 長田翔平（母）

諸先輩方の熱き思いに圧倒されながらも極めてマイペース・・・かと思えば絶妙なタイミングがあったりする。「神出鬼没」は今に始まったことではないがそれが持ち味として輝けるよう、長〜い目で見守っていきたいと思っています。

本人談：小平・長崎の公演ガンバル

誰が観に来るの？

## 若竹ミュージカルオーケストラ

ヴァイオリン 安部周子

私が最初に参加させていただいたのは11年前の「ウェスト・サイド・ストーリー」でした。今回お話しがあって改めて年月を痛感致しましたが、お母様、子供達のエネルギー、パワーは全然変わってなく驚いています。「サウンド・オブ・ミュージック」と云う事一度も経験がないので不安でしたが、若いオケの皆さんに助けていただきながら私の古里での公演楽しみにしています。そして足を引っ張る事のないように頑張ります。感動と一緒に出来る事を幸せに思ってます。

ヴァイオリン 植田陽子

若竹ミュージカルに参加するようになって2年目になりました。私は若竹ミュージカルの雰囲気がとても好きです。いつも練習に行くと「おはようございます！」と元気よいあいさつで迎えてくれます。練習の回数を重ねるたびに深まる舞台の演技にも、よく引き込まれます。本日公演する『サウンド・オブ・ミュージック』の中でも私が特に好きな曲は「すべての山に登れ」です。この曲をみんなで合わせていると、とても勇気がわいてくる気がするのです。今日はそんな思いが伝わるよう、心を込めて演奏したいと思います。

家族で若竹へ

ヴァイオリン 大串千代

家族で若竹に参加して長くなります。子どもたち

は出演者ではありませんが、「若竹と一緒に行くよ。」とほぼ練習についてきます。そして、今年のはじめに長崎に行くことを話すと、電車大好きの子は、率先して時刻表を手にして調べはじめました。…結局、息子の希望をとりいれつつ、我慢させつつ、プランが出来上がりました。娘は、車内のおしゃべり、長崎の食べ物を満喫してくれることと思います。若竹を通して、親も子も様々な経験をさせていただいています。小平・長崎に伺うことが、夏の思い出となることに感謝します。

ヴァイオリン 大野晴子

若竹ミュージカルの魅力、それは、観に来て下さった方々・舞台を作っている人々が、ミュージカルを通して、一生懸命生きる感動のようなものを、同じ気持ちになって感じられることだと思います。今日は、私自身初めて若竹ミュージカルを観たときに覚えたその感動が、この公演でも皆さんに伝わるようお祈りしながら、演奏させて頂きます。

ヴァイオリン 金 有紀

「こんにちは。わたしは、若竹ミュージカルのオーケストラでバイオリンを弾いています。大学を出て社会人になったら、練習をしてオケに参加する余裕や時間なんてなくて、きっとここでお別れなんだろうなあ…と思った1年くらい前でしたが、いま、こうしてまだ楽器と離れずにいます。さて、わたしは今回地方公演には初めて参加させていただきます。楽器とさよならするどころか、元気と魅力のあふれる若竹の活動に加わらせていただいて、長崎へ公演にも行くことになって、世界がすごく広がったなあと感じています。本番まであと少しですが、足を引っ張らないよう練習していきたいと思っています。

ヴァイオリン 平野知佳子

私が初めて若竹ミュージカルを見たのは、1977年山梨公演でした。従兄の諭兄ちゃんが出演するということで家族旅行も兼ねて行ったのでした。当時、私は小四で、ウェストサイドストーリーの一幕の喧嘩の場面が印象に残っています。「争い」を演じるのに苦労したと伯母から後日聞いたのも、今はよくわかります。「追っかけ」から始まって、ついに私も若竹ミュージカルのオケメンバーの一員となりま

した。長崎公演は私のデビューとなります。先輩のみな様方と一緒に感動が客席に届けられるよう、がんばります。

ヴァイオリン 淵本品子

東京公演・長崎公演と大きな目標に向かってがんばってきました。たくさんの人たちにこの若竹ミュージカルを見てもらえることをとてもうれしく思っています。大切な仲間と共にステキな時間を楽しみたいと思います。

ヴァイオリン 森永佳代

『サウンド・オブ・ミュージック』には、有名な曲がたくさんありますが、中でも私の好きな曲は「私のおきにいり」です。メロディーも若竹のみなさんの「おきにいり」がたくさん詰まった歌詞も大好きです。「悲しい時こそ楽しいことを思いだそう！」という前向きな姿勢もいいですね。ちなみに私の「おきにいり」はケーキ、お寿司、電車での読書…いろいろありますが、この「若竹ミュージカル」も大のおきにいりです。みなさんは『サウンド・オブ・ミュージック』のどの曲が好きですか？公演では、会場のみなさんが一緒に歌を楽しめるよう、精一杯がんばります。

チェロ 島田栄子

「私が若竹ミュージカルに参加するようになって十数年経ちましたが、東京以外の公演では数年前に新潟に参加しました。新潟ですと日帰りでの参加も可能で、本拠地以外での公演にもかかわらず、気軽に出かけて行ったような記憶があります。今回は久々の東京以外での公演ですが、長崎までの道のりの遠さを実感するとともに、この公演を実現させるまでの皆さんのご苦労はいかばかりであったかと思いましたが、関係者の皆さんのお力、熱意がこの長崎公演を現実のものにしたのだと思います。時間をかけて実現した長崎公演。前回は思い至らなかった部分も含め、この貴重な体験を皆さんと分かち合うために、精一杯頑張ってステキな思い出を作りたいと思います。

チェロ 田中 博

若竹ミュージカルの最初の公演から14年。何度目の『サウンド・オブ・ミュージック』の公演でしょう。この曲に思う感情、思い入れのある曲が変わってくるから不思議です。進学、就職、結婚、子供の誕生……。自分の環境が変わるにつれ、自分の引き出しがふえ、人生の経験を曲りなりにもつむことができたからでしょう。その成長を演奏に… 出せるといいなあ…。

チェロ 鷲頭まり子

5年前は観客席にいました。次の公演からはちゃっかりオケピットに潜り込み、若竹ミュージカルの内側から感動を受け続けています。何年か前の静岡公演は行けませんでした。私の小4の娘は重度重複障害児なので、今回もまず無理でしょうと決めつけていたら、卒業生のお母様に「思い切ってショートステイに預けて参加してみたら？お母さんが元気なのが子供にとっても一番ですよ。」と励まされ、ほんとうに、本当に思い切って参加します。卒業生の皆さんの幸せそうな笑顔や保護者の方々の明るくたくましい姿にいつも憧れています。長崎でもきっと素敵な方々に出会えることをとても楽しみにしています。

コントラバス 井上理紗

私は、2年前の小金井祭公演から若竹に参加させていただいています。毎回の公演本番で、ミュージカルメンバーとオケメンバー、そして公演を見に来てくださるお客様の心が一つになるような熱い思いを感じていました。オーケストラだけの演奏会では感じることのできない感動。こんな素晴らしい感動を味わえる若竹ミュージカルに参加させて頂き、本当に感謝しています。この感動を色々な方に味わってほしいと思っています。小平公演、長崎公演では、見に来てくださった全ての方と感動と一緒に味わいたいと思っています。

若竹ミュージカル、海を渡る！

コントラバス 大串清文

若竹ミュージカルに参加し始めた1994年、たくさんの仲間と共に参加していましたが、家族と言えば自分一人で参加していました。1998年、結婚。妻と共に二人で参加。2000年、2001年と長男、

長女誕生。子どもが小さい時は寂しく一人での参加でしたが・・・いま2007年、家族四人で参加できる幸せがあります。家族に限らず、若竹ミュージカルのメンバーも、一年、五年、十年と長く活動する中で、本当の家族のように、つながり、ひろがりを感じています。そして、若竹ミュージカルの公演も、とうとう本州を離れ、関門海峡を渡って、九州は長崎での公演です。長く活動することで、大変なこともあります、それにも勝る大事なことがあります。この先10年、今度は太平洋を渡って、Go!Go! ブロードウェイ!!!

フルート 佐藤玲子  
たくさんの方に私たちの音楽を聴いてもらいたい！楽しい時間を過ごしてほしい！そう思いながら、練習し、本番に臨んでいます。東京だけでなく、長崎のお客様にも聴いていただけるなんて、とてもうれしいです。以前メンバーから新潟公演の話聞き、「いつか私も…」と思っていたので、夢が叶って幸せです。ちゃんぽん食べて、カステラ食べて、パワフルに演奏します！（ダイエットは明日から……こちらはなかなか叶わぬ夢ですね（^o^；））

オーボエ 清水沙織  
初めて『サウンド・オブ・ミュージック』を見たのは小学生の時。学校で教わって何気なく歌っていた「エーデルワイス」に、こんな思いがこめられていたなんて……。子どもながら、大きく心を揺さぶられたのを覚えています。それからは、このミュージカルが大好きになりました。若竹ミュージカルのみなさんと一緒に長崎公演に参加させていただけることを、うれしく思っています。心をこめて演奏します。

長崎で公演する機会に恵まれるとは！

クラリネット 鈴木宏治  
それを実現させたものはたぶん、「力」なのでしょう。日々、練習に取り組む舞台メンバーの力、物語が持つ力、音楽の持つ力、もちろん、われわれオーケストラの力も。そして私たちを呼ぼうとご尽力下さった長崎の方々。それらが遠く近く、合わさって、この公演が実現したのだと思います。さあ、そして当日に必要なのは、お客様の力。お客様の「ご期待」を力として、精一杯がんばります。

子連れクラ吹き、ついに長崎へ！

クラリネット 鳴瀬絵理  
若竹ミュージカルのメンバーになって早11年。いろんな場所で演奏し、多くの出会いを経験してきました。わたしにとって長崎は初めて踏む土地。どんな出会いが待っているかワクワクしています。1歳10ヶ月の娘の好きな歌は「ドレミの歌♪」皆さんと一緒に歌えるかしら？

ファゴット 佐藤寛治  
皆様、今日は。ファゴットの佐藤寛治です。「ファゴットってどんな楽器？」という方もいらっしゃると思いますがオーケストラピットから茶色の煙突みたいなものがありますがそれがファゴットです。オーケストラの曲ではチャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」が有名ですね。静岡公演の時から皆様と御一緒させていただいております。今迄オペラ、バレエは演奏しましたがミュージカルはこの若竹ミュージカルで初めて演奏させていただき、ミュージカルの楽しさを知ることが出来ました。九州は宮崎、福岡は行ったことがあります。長崎は今回、初めてです。長崎の皆様と御一緒するのをとても楽しみにしております。

トランペット 赤澤秀行  
長崎と東京。とてつもなく距離があります。私は長崎に中学生の時、修学旅行に行きました。あれから二十年、再び長崎を訪れる事になり、時間の隔たりも感じています。今回は『サウンド・オブ・ミュージック』というすばらしい絆で結ばれる楽しい長崎になったらいいなと願います。

『原寸大のミュージカルを通して』

トランペット 松山桂子  
ミュージカルってすばらしい！私が若竹ミュージカルを最初に見た時の感想です。トラップ大佐やその子供たちがマリアから教わったように、私もこの若竹ミュージカルから音楽の楽しさを改めて教わりました。音を奏で、その音を感じ、その音を表現し、そして、その音を楽しむ。まさにこれが音楽だと思いました。若竹ミュージカルのメンバーは全員がこの感動を知っているように思います。だから若

竹ミュージカルの公演は、原寸大の『サウンド・オブ・ミュージック』です。今回もまた、この原寸大のミュージカルを通して、多くの人たちとこの感動を共感できたら幸せです。

若竹ミュージカル・オーケストラ

トロンボーン 谷口良三  
舞台のメンバーが歌い、踊っている伴奏は、ピットの中のオーケストラのメンバーが奏でています。さらに、場面をつなぐ転換の音楽も演奏するなど、様々な役割を担っています。そのオーケストラを構成している楽器は、その多くが一度に一つの音しか出しません。ピアノのような楽器で構成されていたら、人数も少なくても済んだかもしれませんが、楽器には一つ一つに音に特徴があり、その楽器でしか出せない音があります。それらが集まり、一つの音楽を作り出すのです。舞台での台詞や歌、踊りと似ていると思いませんか？

トロンボーン 戸邊安代  
「屋根の上のバイオリン弾き」を始めた頃から若竹ミュージカルに参加させていただいてます。様々な人たちの心のあたたかさに触れながら、ミュージカルの中でトロンボーンを演奏できる事に幸せを感じております。純粋な気持ちで音楽、芸術を楽しみ、日々を送れる事に感謝して、公演に挑みます。どうぞ、よろしくおねがいします。

チューバ 奥田和広  
みなさんこんにちは。オーケストラでTUBA(チューバ)という楽器を演奏している奥田です。「屋根の上のバイオリン弾き」にはパートがなかったので久しぶりに帰ってきました。長崎に向けて、また一緒に舞台を創る空間に居ることができて幸せです。昨年の小金井祭公演をやってみて、第3期『サウンド・オブ・ミュージック』ということで配役も替わっていて、まったく新しい『サウンド・オブ・ミュージック』になりそうな予感がしています。若竹らしい味のある、感情と表現と向き合った公演にできるようにがんばりたいと思っていますので、よろしくおねがいします。

## 支援者

安東恵美

昨年から、改めて若竹ミュージカルに関わらせてもらうようになりました。お稽古は楽しいのですが、今は作り手として関わる人が多いのでプレッシャーも感じています。新しい『サウンド・オブ・ミュージック』のダンスの振り付け考える機会を与えてもらいましたので、演じる皆さんの楽しんでいる雰囲気をごわさないように気をつけながら踊っても、見ても分かりやすいダンスを作ろうとこれまでやってきました。確かに稽古する時間は少ないです。それでも振り付けを覚えて自分たちの表現にして楽しむところは、さすが若竹ミュージカルの皆さんだと思っています。さあ、本番です。思いっきりからだで表現してみましょう！！

井上久美

今日の舞台に向けて、毎月数回の練習をコツコツ、じっくりと取り組んできました。1回1回の練習で、ミュージカルのメンバーに会えることがうれしくて、そんな気持ちがセリフや歌、ダンスに込められています。私自身は今年の4月から若竹ミュージカルに参加していますが、「そのときのメンバー一人ひとりの気持ち」と「そのときの自分の気持ち」が出会うことで、いきいきとした音楽を感じ、表現する楽しさを味わっています。そして今日はいつもの若竹ミュージカルのメンバーに加え、ご来場いただいた多くのお客様からのパワーを受けて、一緒に『サウンド・オブ・ミュージック』の音楽が紡がれていく2時間を、楽しみたいと思います。

大野優子

私の趣味はもちろん演劇ですが、実はもうひとつあります。それは、旅行です。旅行の楽しみはなんといっても出会いです。地元の人やおいしい食べ物、歴史や文化との出会い。そういった一つ一つの出会いが人生を豊かにしてくれるのだと思います。旅公演は私の好きなことが二つも入っている超スペシャルな行事です。長崎にはどんな出会いが待っているのでしょうか。音楽を仲立ちにきつとすてきな出会いができることと思っています。観客の皆さんにも若竹ミュージカルに出会えてよかったなと思ってもら

えるようにいい舞台にしたいと思います。

「一人ひとりの輝きをぜひ！」

加藤富美子

若竹ミュージカルに参加させていただくようになって4年ぐらいになるでしょうか。公演のたびごとに、卒業生のみなさんがグリーン、グリーンと伸びていく姿に心躍らせてきました。今回の『サウンド・オブ・ミュージック』の稽古中にも、どれくらい、胸を熱くしたことでしょう。特に注目は、こどもたち役の一人ひとりのすてきな表現、そして、ひつじ座のみんなの一人ひとり自由自在な表現です。一人ひとりの輝きをぜひ観ていただきたいと思います。

「かみやさん、おはよう！」

神谷浩美

練習の日は、ミュージカルの出演者のみなさんのこのような気持ちのいい挨拶から1日の練習が始まります。私は去年の小金井祭の公演に感動し、今年1月からコーラス隊として参加しました。メンバーは和気あいあいとしながらも練習では常に公演の成功を目指して、とてもいい雰囲気の中で素晴らしい経験ができていることに感謝しながら練習に励んできました。今は、ミュージカルを通して、1つの音楽や歌がみんなをつなげ、一緒に楽しむことができるということを強く感じています。公演では、お客さまに『サウンド・オブ・ミュージック』の素敵な物語や音楽や歌というものの楽しさを伝えられるように頑張ります！

「いつの間にか…」

佐治千尋

私が若竹ミュージカルと関わるきっかけになったのは、去年の東久留米公演でオーケストラに参加したことです。その時のメンバーのみなさんのいきいきした姿は強く印象に残っています。それから興味を持ち、大学の授業で若竹ミュージカルについて調べました。調べる中で工藤先生やお母さん方からたくさん話を聞かせていただきました。「一度関わったらはまっちゃうわよ」なんて言われながら…。そしていつの間にか私も舞台上に上がることになりました。練習はたくさん歌って疲れるのですが、い

つも笑顔が絶えることがなく、元気をもらって帰っています。

「長崎という大舞台」

田口 彩

今回は私の故郷、長崎でサウンドオブミュージックに出演できることを嬉しく思います。私は若竹ミュージカルを通して多くの人と出会い、音楽の楽しさや難しさ、そして素晴らしさを改めて感じました。今日は会場の皆さんと、この温かい気持ちを共に分かち合えたらいいなと思います！また、ここ長崎は日本の鎖国時代に唯一他国との交易を持っています。「異国情緒漂う」とよく形容されますが、今日はこの異国からの風を追い風にして若竹ミュージカルの仲間たちと一緒に舞台を所狭しと駆け抜けたと思います。歌、踊り、演技、そしてなにより演技している楽しさから自然と溢れてくる舞台上の笑顔にご注目ください。

「長崎」を励みに

立山直子

去年のハイライト版から、今回は全幕へと、台本や楽譜の書き込みも増えて、より難しいことを目指しているのを実感しています。想いを同じにしている人たちに舞台を見てもらい、一緒に歌う。大きな喜びです。「長崎に向けて」「長崎までには」等、気がつくと日々自然に口から出てきて、長崎の舞台がどれだけ日常の励みにもなっていることでしょうか。公演の準備をしてくださる方々に感謝すると共に、音楽や踊りが人々の輪を広げてくれることを願っています。

「旧き友、新しき友あり、夢を語り、また楽しからずや」

根本友己

長崎公演。不思議な成り行きだが、私個人としても予定調和の様に感じる。長崎在住の旧き二人の友との親交がよみがえった。今回長崎の公演でも重要なお二人である。また、新しき友ができた、東京にも来て頂き、長崎の实地踏査で親交をもった附属学校の方々。輪が広がっていく。若竹ミュージカルに係わり続けている中では、魅力的な人にたくさん会え

る。そして、同じ夢をともに語り合うことの素晴らしさ。このように今回も強く願えば必ず、実現することを証明した。さて、この公演が一人一人に自信と可能性を与え、新たな夢を生み出す事、そして関わった全ての人もその夢を共有できる事を願う。

“不思議なめぐり逢わせ…！？”

橋本明子

私の母は長崎出身。祖母や叔父、叔母、従兄弟たちが市内で暮らし、私も年に1度程は長崎へ帰ります。私自身は長崎で暮らし、育ったわけではないのですが、私の中ではこの地は“心の故郷”。好きな場所、景色、思い出の場所、祖母から聞いた長崎の話、等々…、色々なことが浮かんできます。その地でまさか！！この若竹ミュージカルが公演されることになろうとは…！！さらに長崎公演では長崎のみなさんと共演できる！！若竹ミュージカルに初めてお邪魔させて頂いた4年前の8月、想像しえなかったことが実現しようとしています！！この“不思議なめぐり逢わせ…！？”に感謝して、舞台では一緒に楽しみましょう♪

長崎と東京を結ぶ平和祈念像

福井 滉

大昔の若かりし頃、新婚旅行で訪れた長崎市で平和祈念像を見て、その力強さに深い感銘を覚えたものでした。それから30数年たった2003年5月、仕事の合間に訪れた島原城で西望記念館に入り、多くの北村西望の作品に接するとともに、平和祈念像の原型が東京にあることを知りました。そして2004年2月、東京・武蔵野市・井の頭自然文化園彫刻園で遂に「原型」との対面を果たしたのです。写真に収まりきらないほど大きなものでした。平和祈念像がここのアトリエで制作されたことを想い、感慨を新たにしました。長崎県名誉県民であり、東京都名誉県民でもあった北村西望が制作した平和祈念像を介して長崎と東京の強い絆を感じます。

ワルツは“回る”

福井 晴美

Kくんと私は第1幕・第9場トラップ家のパーティシーンでウィンナワルツを踊ります。3拍子が同じ

長さでなく2拍めがやや早めに演奏されるウィンナワルツは優雅で大好きです。このシーンのワルツは84小節もあって、ダンサー全員が揃って最後のポーズを決めるのはなかなか容易な事ではありません。そこで2小節を1ステップとし、2(休)・8・8・8・4・8・4と旋律に区切りを付け、最後のワンステップでポーズを決める練習を重ねました。

ドイツ起源のワルツの語源は、ゲルマン(ドイツ)語で‘回転する’という意味だそうです。今日Kくんと私は、いつものようにKくん所属の野球チームの話、駅前の○屋の牛メシの話などしながら、恋人同士?の作りで40回、くる・くる・くる～んと回ります。～今日は本番、力ばあわせ、いつもより頑張ってるばい、愉しんでもらえば嬉しかよ～

広まる 深まる 輪

三輪禎子

公演の度に自分達がやっている活動を知ってほしくて知人、友人達に案内をするようになったのはいつの頃からだろう。最初は活動そのものに関わり、練習の経過が楽しく、また卒業生の生き生きした姿を成長し続ける姿を見る喜びに浸り、それに満足でした。今年、小平、長崎そしてホームグラウンドである小金井祭と公演が続くその一つ一つに公演の案内を懸命にしている自分を見出す。そして演目も最初の作品『サウンド・オブ・ミュージック』。思い巡ると若竹ミュージカルの輪が広がり深まっているのを強く実感する。その実感がさらに「広まる 深まる 輪」になるだろうと期待している。

山本正子

公演の日が近づいてきました。練習に熱が入って練習時間オーバーが常になり、厳しいダメ出しも…。しかし、オーケストラの演奏をバックに、歌い踊り演じることの楽しさ(気持ち良さ?)と、仲間や支援者と創りあげる喜びを味わってきている卒業生には、厳しい言葉もなんのその。ちゃんと食らい付いていける役者魂!が育ってきています。長崎のみなさまに素敵な舞台を観ていただくことを目標に、若竹ミュージカルのメンバーは、今燃えています。そして、公演の日には、長崎のみなさまとの、新しい『サウンド・オブ・ミュージック』の響きを楽しみにしています。